

ポスター発表（専門領域別） | 専門領域別：コーチング学

■ 2025年8月29日(金) 13:30 ~ 14:30 ■ メインアリーナ(入口側)(スポーツ棟 2階) / コーチング学

[3b1165-195] コーチング学（奇数演題） / ポスター発表**[09コ-ポ-61] 大学スポーツ選手のコミュニケーション能力と種目特性・性・役職経験・競技レベルとの関連***井藤 英俊¹、青柳 領、坂口 英章² (1. 九州医療科学大学、2. 日本経済大学)**【緒言】**

スポーツを行う時、チーム種目ではメンバーと戦術を共有し、協力する必要がある。キャプテンなどチーム内での役割を果たすためにも部員とのコミュニケーションは重要である。また、よいコミュニケーションは個人やチームの士気を高め、結果として好成績を生むことが考えられる。しかし、その様相には性差も考えられる。そこで、本研究は大学スポーツ選手のコミュニケーション能力と種目特性、性、役職経験、競技レベルとの関連について検討する。

【方法】

F県内の大学で定期的にスポーツを行う139名を対象に、自身のコミュニケーション能力に関するアンケートを実施した。評価項目は「聴く力」「観察する力」「感じる力」「質問する力」「伝える力」の5領域で、各5項目ずつ計25項目について「そう思う」から「そう思わない」までを5段階に評価してもらった。あわせて種目特性、性、役職経験、競技レベルについても調査し、両者の関連を相関比により分析した。

【結果】

「性」では「聴く力」で1項目、「観察する力」で3項目、「感じる力」で2項目に有意差が見られ、いずれも女子の方が男子よりもコミュニケーション能力が高かった。「役職経験」では「聴く力」で1項目、「観察する力」で1項目、「感じる力」で3項目、「質問する力」で1項目、「伝える力」で1項目と、広範囲な下位領域で有意差が見られ、いずれも役職経験者が高いコミュニケーション能力を示した。また、「競技レベル」では「聴く力」で1項目、「感じる力」で1項目に有意差が見られ、競技レベルの高い者の方が高いコミュニケーション能力を示した。しかし、個人競技か集団競技かを区別した「種目特性」では、有意な違いはどの項目にも見られなかった。つまり、役職経験者は多様なコミュニケーション能力を有し、女子や競技水準の高い者は特定の領域で高いコミュニケーション能力を有していた。